

東京オリンピックに向けて、都内さらなる地中化に!!

第1弾

皆さんもご存知の通り、東京都は日本で電線類地中化が最も進んだ都市です。その東京都が2020年五輪に向けてさらなる地中化を進めています。舛添知事や無電柱化議員連盟のコメント・活動によって、東京が日本を代表する美しい電線のない街になることは間違いないでしょう。

今回は都の進捗情報、近況を伺うために、〔都庁建設局道路管理部の安全施設課 架空線地中化係〕に電話取材させていただきました。

Q. 現在の無電柱化の現状・目標を教えてください。

A. 山手通りと荒川に囲まれた区域外、及び多摩地区の主要な50駅の周辺の都道から、順次事業化していく予定です。東京国際空港(羽田空港)、調布市の東京スタジアム周辺は現在進んでいないので、地中化を積極的にやっていきたい。また、区道の地中化も実行していきたいと思っています。地中化事業は平均6年かかるので、2020年7月オリンピックまでに、現場の工事が完了するように、工事着工を急いでいます。競技場や駅の調査は去年の秋に行いました。

Q. 舛添知事の電線地中化の実行発言によって、寄せられた意見などはありますか。

A. 特になが、前々から自宅前の地中化要望などは都民から寄せられていました。

Q. 各電線管理者の最近の動向はありますか？

A. 東京電力とNTTは都内全域の地中化を実施する意向を示しています。できない箇所があるなどの報告は今のところ受けていません。

Q. 東京都の積極的な電線地中化への取り組みから、地方行政への波及効果はありますか？

A. 地方は、費用面の問題があるため、駅周辺や観光地のみの実施に留まっています。しかし、整備システム、事業の段取りなどは東京都が積み上げてきた経験・知識を活かして、細かいサポートやアドバイスを行っています。

〈聞き手:事務局員インターン生 北山惇也〉

取材回答第2弾は次の68号に掲載しますのでお楽しみに！



私達が住む日本の空を、みんなで美しい空へ！

美空 ~MISORA~

第67号

発行日:2014年3月25日(火)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇

【活動報告】

※東京活動委員会の活動報告は美空66号をご覧ください。
2月度理事会…2014年2月26日(於 COM計画研究所)

建通新聞社 松本氏が前回に続いて取材されました。

◆技術開発委員会:井上(了)理事

2月21日の第4回国土交通省との勉強会報告。(美空66号参照)

来年度は①新しい無電柱化手法②現行技術のコスト整理③NPO会員の保有技術の利用促進④公共機関との連携を考えている。

◆世論形成委員会:中村理事

7月に大阪でフォーラムを開催する。企画内容は今後詰めていく。

◆事業協力委員会:井上事務局長

来年度のテーマは「新しい連携によるネットワーク強化」を考えている。①事業協力の実践②市町村との勉強会実施③国交省・寒地土木研究所等との連携・事業展開と計画を詰めていく。

・2月26日に寒地土木研究所松田氏との意見交換の報告。(美空66号参照)

◆東京活動委員会報告:井上事務局長

2月20日の東京活動委員会報告。(美空66号参照)

◆次回の理事会の日程

■東京3月27日(木)19:00~
住友林業(株)会議室/経団連ビル8F
・話題提供:高山氏…「民間住宅開発地の地中化と景観」

■大阪3月28日(金)18:00~
COM計画研究所/
・委員会活動報告
・次年度活動計画詳細 その他



日本の電柱・電線社会の現状について感じていることをエッセイとして綴り、お送り下さい。本会報の【随想】欄に掲載させていただきます 1000~1500文字、簡単な自己紹介(お仕事、住所等)とポートレート(顔写真)を添えて下さい。投稿をお待ちしています! 事務局 井上 info@nponpc.net



地中化された路線



電力の中継基地 1

電力線に関しては2009年より、ようやく竹富港から集落の中心部までの約720mの区間(町道大榎線、人家がなく整備しやすい)の工事がスタートしていますが、集落域の電線類地中化(町道約9.2km)には程遠い状態にあります。

住民に熱意があり、伝建の指定があるなど、整備環境が整っているのに、なぜ地中化が進まないのでしょうか？



集落中心部の状況…



＜本記事の続きは次回第68号に掲載させていただきます。地中化が遅れる原因と、地域実情に沿った在り方の提案についてです。＞

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事などがありましたら info@nponpc.net までお送り下さい！
皆様のご意見、お待ちしております！ tel:072-653-5811 Fax: 072-653-5833

電線地中化に関するコラム・情報を月2回メールマガジンで配信しています！

ぜひこちららもご登録下さい！ → <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

【特集】

「竹富島の無電柱化について」 第1弾 ～伝統的建造物群保存地区の課題と方向性～

[投稿:井上了介理事]



竹富島は、沖縄県八重山諸島の真ん中に位置する、周囲約9km、人口約350人の隆起珊瑚の小島です。白い珊瑚を敷き詰めた街路の両脇に、珊瑚を積み上げた石垣の中に赤瓦の平屋が並ぶ美しい景観を保持しており、沖縄県で初となる重要伝統建造物群保存地区(伝建地区)の指定(1987年)をうけています。その歴史は古く、琉球王国時代には蔵元(首里王府の出張所)が置かれています。伝統芸能も盛んで、沖縄県で最も有名な民謡「安里屋ユンタ」もこの地で生まれています。沖縄屈指の観光地であり、八重山諸島へ訪れる観光客の第一目的はこの島であるといわれています。



竹富島のシーサーは個性的

島の住民の環境に対する意識は高く、島の環境保護と活用をうたった住民憲章「竹富島憲章」を制定するなど、電線類地中化も積極的にすすめていっています。しかし残念なことに、生活・観光の中心で、地中化が最も必要とされる集落域にはまだまだ多くの電線・電柱が残ったままになっており、せっかくの美しい景観を阻害しています。

竹富島の電線類地中化は、住民の要望により、1982年に通信線の地中化が実施されたことからはじまりました。



ホームページでも、最新情報を詳しく掲載していきます。<http://nponpc.net/>
フェイスブックはこちら:<http://www.facebook.com/NPONPC>